

令和7年度 学校評価結果

<p>本年度の 学校重点目標</p>	<p>1 健やかな体と豊かな心を育み、目標に向け粘り強く学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。 2 学校と地域のかかわりを大切にし、地域から信頼される生徒を育てる。 3 教職員の多忙化解消に向け、業務内容の精選を行い、健康的な環境整備に努める。</p>		
<p>項目 (担当)</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>評価結果と課題</p>
<p>学習指導 (教務部)</p>	<p>①教育課程の効果的な運用と編成</p>	<p>・年度途中に各教科の教育課程の実施状況を確認し、教育課程の適切な運用・改善を図る。 ・本校生の進路志望に対応するように学習評価(観点別評価)について現状分析を行う。</p>	<p>教育課程では、数学で生徒の進路にあわせた変更を行った。 各教科での学習評価は適切に行われている。</p>
	<p>②学習意欲と進路意識の高揚</p>	<p>・シラバス等の資料を活用し、生徒が学習進度を確認しやすい授業展開を図る。 ・次年度科目選択に際しては適切な資料を提示し、進路意識の高揚を図る。</p>	<p>来年度以降も各教科や分掌との連携を密にして、生徒の学習意欲向上のための方策を考える。</p>
	<p>③校務支援システムの適切な活用</p>	<p>・適切な活用ができるように各分掌と連携する。 ・これまでの課題を調査し、その改善策を提示する。</p>	<p>校務支援システムは、有効に活用できている。今後も各分掌からの意見を吸い上げて、校務が円滑に進むよう研究していきたい。</p>
<p>生徒指導 (生徒指導部)</p>	<p>①いじめの防止</p>	<p>・情報モラル指導を充実し、SNS等のいじめの防止へ繋げる。 ・生活意識調査の回答に注意し、機敏に対応する。</p>	<p>友人同士の悪ふざけが度を越えるというような幼稚な件はあるが、SNSを介して一人をターゲットにするような悪質なものは報告されていない。ただし今後も注意は必要である。</p>
	<p>②遅刻者数の減少</p>	<p>・ゆとりを持った行動をとるように普段から声掛けをする。 ・遅刻数の多い生徒に対し、個別面談を行う。</p>	<p>面談は各担任の協力もありしっかりできているが、特定の生徒が遅刻を重ねることについてはなかなか歯止めがきかない。</p>
	<p>③交通安全意識の高揚</p>	<p>・交通安全教室を実施し、登下校だけでなく、普段の生活から交通安全に対する意識を高める。 ・自転車利用者にヘルメット着用を促す。</p>	<p>学校周辺の道路にも自転車の通行すべき側に標識が描かれ、露骨な逆走は減少している。</p>
	<p>④身だしなみ指導の充実</p>	<p>・生徒がTPOを理解し、その場に応じた着こなしを意識できるように促す。</p>	<p>寒くなってスカートの下にジャージを履く生徒が出てきた。スラックス購入者は導入当時よりも減っている。</p>

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
進路指導 (進路指導部)	①進路適性の把握	・進路相談の充実とキャリア教育の実践を進める。 ・模試および適性検査の結果を活用する。	模試等の結果は文理選択をはじめとして、将来の進路先を考慮した進路相談において有用に用いた。ただ、進路先決定について、未だ自分事として捉えられる生徒が少ない。 各教科の学力レベルに合わせて、授業での取り組み内容に工夫を入れている。
	② 大学入試新制度への対策	・研究会等で入手した情報を各学年、各教科と共有し、新制度入試の対応策を講じる。	新課程となって2年目の大学入試制度であり、予想される傾向を教員・生徒ともに理解しながら対策を講じている。
	③ 進路情報の収集と生徒・保護者への情報提供の充実	・各学年で進路に関する資料を配布する。 ・卒業生の進路状況を把握する。	3学科ごとに適切な情報をその都度公開した。外部で開催される進路説明会などに積極的に参加する生徒も見られる。
その他	・国際交流活動の見直し	・姉妹校との新しい交流の在り方を検討する。	9月に姉妹校がある米・ジョージタウン市から市長はじめ9名が来校し、姉妹校との交流再開の方法を検討した。YFU日本国際交流財団から米・留学生を約2週間受入れた。 姉妹校とは短期研修派遣再開のための準備の具体的な提案や、交換留学以外の国際交流の形、姉妹校以外の学校や国との交流の可能性等を根気強く模索していきたい。
	・多忙化の改善	・長時間労働の改善	今年度は業務の平準化に努めるとともに定時退校日の数を増やした。時間を意識して業務をすすめる体制にもつながった。しかし時間外労働時間の削減はまだ十分とは言い難く、次年度も実現に努めていきたい。
総合評価	<p>今年度は生徒の進路にあわせた教育課程の変更を行った。今後も生徒の進路志望に対応できるように弾力的に見直しを図る必要がある。生徒の学習意欲と進路意識の高揚を図るために、各学年・教科と連携しながらより効果的な方法を模索していきたい。</p> <p>大学入試が新制度になって2年目のため、全体の動向に気を張りながら本校生徒にも対応できるような進路指導を常に心がけて動いた。大学入試共通テストをはじめとして多くの受験の申し込みがWebで行われるようになり、大学ごとに異なる様式であるため、昨年度までとは異なることが多い。そのため、全教員がこの仕組みを理解できるように教員に対しての情報提供も重視していく必要があると感じた。また、総合ビジネス科・生活文化科からの就職希望者の減少や、普通科からの就職希望者増加など、本校を取り巻く就職に関する状況も変化しつつあるため、希望した生徒が満足できる対応ができるよう、全教員の理解のもと指導を進められるように強化していきたい。</p> <p>出席については不登校や欠席の多い者が増えており、その対応に時間を費やすことが増えている。遅刻回数が多い者に対する面談は担任の協力のもとしっかり行ったが、特定の者が遅刻を重ねるケースの歯止めとはならなかった。学校は集団生活の場であるので規則等を守らせる意味を生徒に伝えていく必要がある。言葉を選び時間をかけ、諭していくような態度が求められている。</p> <p>生徒の健康・安全に配慮し、充実した学校生活を支えていける体制の維持拡大に努めたい。</p>		
学校関係者評価を実施する 主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・本校生徒の学力や目標に応じた適切な学習指導 ・生徒の進路希望実現のための相談活動及び指導の充実 ・生徒の健康や安全の適切な管理 		